

女性の余暇活動に影響を及ぼす 要因に関する研究(2)

—妻の余暇活動参加パターンの分析から—

○三宅 基子(財・日本レクリエーション協会)

蘭田碩哉(財・日本レクリエーション協会) 野村一路(日本体育大学)

余暇活動 女性 阻害要因

1. はじめに

総理府「女性に関する世論調査」による女性の結婚観の年次推移の結果から、かつて女性の経済的自立が困難な社会において、結婚は女性にとって「生活保障の場」であったが、「一人立ちできればあえて結婚しなくてよい」と思う人が増えてきていると井上、江原らは報告している。さらに1973年と1988年のNHK「日本人の意識調査」を比較し、女性が理想とする家庭像は、「夫は仕事、妻は家庭」という役割分担から「家庭内協力」へと変化していることも指摘している。このような結婚観、家庭観の変化とともに、わが国における女性の社会進出にともなって、女性の意識は、近年大きく変化してきている。

しかしながら、結婚した女性が仕事をもつことについて男性の意識は、15年間変化がなく、特に、子どもを持つ夫と妻の間では、ずれの大きさが指摘されており、男性と女性の意識に違いがあるのが現状である。

一方、筆者らは、「女性の余暇活動参加歴」に関する調査において、女性の余暇活動のあり方が結婚、出産・育児を契機に変化することを報告した。そして、女性が今後、余暇活動を行なう必要条件として「家族の理解」を上げており、家庭の主婦である女性の余暇のあり方は、夫である男性の意識によって左右されるのではないかと考える。

しかし女性の余暇活動のあり方について夫である男性に着目した研究は数少なく、女性の余暇行動を知るためには単に女性の意識を探るだけではなく、女性と男性の両側面からの研究が必要であろう。

2. 目的

本研究の目的は、女性の余暇活動に対する男性と女性の意識のずれとともに、女性の余暇活動のあり方が、女性の余暇活動に対する男性の意識によって、どのような違いがあるのかを明らかにするものである。

3. 方法

調査対象：東京在住の夫婦200組。400名を対象とした。

調査期間：1991年7月27日～8月17日

調査方法：郵送による質問紙調査。有効回答数は92組、184名であった。

有効回答率は46%。

4. 結果および考察

<余暇活動を行なうための費用について>

女性が余暇活動を行なうための費用について、その検出方法をたずねた結果が表1である。検出方法として、女性は「使う金額によって異なる」と回答した人が最も多く30,4%で、次いで「家計費に計上する」(29,3%)となっているのに対し、男性は「お金は女性に任せているので、妻の勝手」という回答が30,4%で最も多く、「家計費に計上」という回答は13,0%と女性の回答に比べ少なくなっている。さらに活動にかかる限度額について、たずねた結果、女性が10,000円未満の回答が5割以上を占めているのに対し、男性の約5割が10,000~25,000円の範囲を占めており、女性が余暇活動を行なうための費用について、男性は認識していないことがわかる。

<女性の夏休みについて>

家庭の主婦にとっての夏休みについてたずねた結果が表2である。女性が自分自身にとって「夏休みはない」と回答したのが最も多くなっている(26,1%)のに対し、男性は女性の夏休みとして最も多い回答は「夫や子どもに関係なく自由に取れる」(26,1%)であり、女性の夏休みについて、男性と女性の意識にずれがあることがわかる。

これらの分析結果を含めて発表当日は、より詳細な研究報告を行なう。

表1 余暇活動費用の検出(%)

家計費に計上	29,3 13,0	上段：女性 下段：男性
女性の収入の範囲内	17,4 15,2	
へそくりなど家計費とは別	3,3 0	
任せているので女性の勝手	15,2 34,8	
使う金額による	30,4 21,7	

表2 主婦にとっての夏休み(%)

夫や子どもの夏休みが夏休み	25,0 20,7	上段：女性 下段：男性
夫や子どもの夏休みは違う	25,0 15,2	
いつでも自由に夏休みは取れる	16,3 26,1	
主婦に夏休みはない	26,1 18,5	
その他	4,3 4,3	